

ずいひつ No.136

2019年1月25日発行

風邪と厄年と私



新年明けましておめでとうございます。2019年になり、めでたく私の本厄の一年が終わりました。おめでとうございます。「厄年なんて気の持ちようでしょ？」とあまり気にしていませんでしたが、2018年は一月一日早々に風邪を引き、それが長引くというなかなかへビーな一年となったので、記録としても勝手ながら残しておきたいと思います。

そもそも厄年とは？

[熱田神宮公式サイト](#)によると『折目節目というように人生には心身の健康、運気の盛衰の節目となる年が知られております。男女ともその年令に達したとき災難に注意するのが「厄年」です。それに対し、九年に一度巡る運気停滞の年が「年廻り」でこれは男女ともに誕生年から数えます。』とあります。「男性は25才・42才、女性は19才・33才が本厄に当たります。」(数え年)なので気になる方はぜひお祓いへ。



私と厄年



正月早々に風邪を引いた私は熱こそ出ないものの、咳・嘔吐・鼻水・結膜炎になり、仕事始めに出勤できず。正月休みに予定していた京都旅行にはかろうじて行ったものの、やはり底冷えの京都、風邪を悪化させて帰ってきました。揚げたはんぺんを食べただけで歯が欠けるというお土産つき。しばらくは白いもの(おかゆとかうどんとか)しか食べられず、普段そんなに食べないとんかつに強烈な憧れを抱いたものでした。満足に食べられない日が続き、これを打破すべく厄払いにも行き、なんとか体調が持ち直し始めたのが4月ごろ。その間にも自転車のおじさんにぶつかられ、暴言を吐かれる、車のバッテリーが上がる(複数回)・・・などさまざまありましたが、次に厄年のパワーを疑ったのは7月でした。友人と計画していた出雲旅行が交通麻痺により中止となりました。何ヶ月も前から計画していた旅行が当日に白紙になり、どうにもこうにもならずとても悔しい思いをしました。しかし、その原因はのちに激甚災害に指定された西日本豪雨。大好きな広島が水に沈むのをただ見るしかないというのは非常に辛いものでした。

やっぱり気の持ちよう！？



そんなこんなありましたが、体調不良も「普段から健康に気をつけよう」とより強く思うきっかけになったし、旅行頓挫も逆に神の思し召しかもしれないし、何より年末には大好きな歌手のコンサートが二公演も当たるという幸運に恵まれたし、平均するとそんなに悪い年でもなかったような気もします。何事も考えようですかね。今年が穏やかな年でありますように。

(犬より猫派司書)